

9. 第15回MSJ-SI(2022年度)開催 報告書

●第15回日本数学会季期研究所「Deepening and Evolution of Applied Singularity Theory」／「応用特異点論の深化と展開」

●日時：2022年11月20日(日)～11月25日(金)

●会場、開催方法：ワークピア横浜、対面とオンライン(Zoom)の併用開催(11月25日(金)はオンラインのみ)

●組織委員：西村尚史(横浜国立大学)、福井敏純(埼玉大学)、濱田直希(KLab株式会社)、石川剛郎(北海道大学)、泉屋周一(北海道大学)、大本 亨(早稲田大学)、佐伯 修(九州大学)、佐治健太郎(神戸大学)、高橋雅朋(室蘭工業大学)、寺本 央(関西大学)、山本 稔(弘前大学)、山本卓宏(東京学芸大学)

●参加者総数：153名、(内訳)中国14名、ブラジル13名、スペイン9名、米国9名、ベトナム8名、英国4名、フランス2名、ドイツ2名、ポーランド2名、オーストリア1名、ブルガリア1名、デンマーク1名、ハンガリー1名、イタリア1名、ニュージーランド1名、ロシア1名、日本83名

●URL：<https://sites.google.com/view/MSJ-SI2022/>

●概要：第15回日本数学会季期研究所は、応用特異点論を主題にし、2022年11月20日(日)から11月25日(金)にかけて、対面とオンラインを併用したハイブリッド方式で開催しました。

1時間講演と30分講演を設けこれらは招待講演のみで構成しました。招待講演者25名のうち12名は海外研究機関所属の研究者であり、そのうち対面での講演者は8名でした。対面で講演した国内研究機関所属の研究者とあわせると対面での招待講演者は18名で、対面での講演は7割以上になりました。対面ですと休憩時間での議論等も活発になりがちですし、久しぶりの対

面での研究集会という事もあり、対面での参加者からは「やはり対面は違いますね、いいですね」との声を聞くことができました。また、女性の招待講演者は4名でした。

今回の日本数学会季期研究所は、2か月以上にわたり開催された数理解析研究所訪問滞在型研究「Singularity theory special months」／「特異点論特別月間」と緊密な連携をしておりました。「Singularity theory special months」／「特異点論特別月間」では応用特異点論に密接に関連する様々なテーマのサーベイが開催されたので、日本数学会季期研究所独自のサーベイは特には企画しませんでした。

さらに、若手研究者にも発表の機会を与える目的で、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使ったオンラインのみという形式でポスター発表を企画しました。全世界へ発表者募集を行った結果、募集に応じたポスター発表者は当初の想定よりも多く12名に上り、そのうち海外研究機関所属の若手研究者は半数の6名に達しました。12室のブレイクアウトルームそれぞれに多くの来場者があり、国内外の若手研究者による研鑽の機会を与えることができました。

今回の日本数学会季期研究所でハイライトに位置付けていたのはJames Damon(The University of North Carolina at Chapel Hill)の講演でしたが、開催の1か半月程度前に訃報が飛び込んでまいりました。開催が間近に迫っていたこともありその後しばらくは対応に四苦八苦しておりましたが、もっとも適任であろうと思えたPeter Giblin(The University of Liverpool)に追悼講演を快く引き受けてもらうことができ、大変ありがたい次第でした。「米国の著名研究者が急逝し、追悼講演を英国の著名研究者が行う。そして追悼講演の模様を日本数学会季期研究所から世界中に発信する」という状況にできましたので、結果としてではありますが、国際舞台において存在感を示すことができました。また、熟練・中堅・若手のバランスのとれた講演者を配置でき、応用特異点論に関して理論・

応用の両面から多彩な研究発表が行われ、さらに、講演終了直後や休憩中での対面による直接討論も活発に行われたことから、意義深い季期研究所にすることができたと思っております。

● 講演者： İnanç Baykur (University of Massachusetts Amherst / Harvard University), Peter Donelan (Victoria University of Wellington), Peter Giblin (The University of Liverpool), Herwig Hauser (University of Vienna), 早野健太 (慶應義塾大学), Minh Toan Ho (Institute of Mathematics, Vietnam Academy of Science and Technology), 本多正平 (東北大学), 一木俊助 (東京工業大学), 池 祐一 (東京大学), 石井志保子 (東京大学), 片長敦子 (信州大学), 小磯深幸 (九州大学), 真瀬真樹子 (東京都立大学), 鍋島克輔 (東京理科大学), Tat Thang Nguyen (Institute of Mathematics, Vietnam Academy of Science and Technology), Juan Jose Nuño Ballesteros (Universitat de València), Raúl Oset Sinha (Universitat de València), Tiến-Sơn Phạm (Dalat University), Alexey Remizov (Moscow Institute of Physics and Technology), Wayne Rossman (神戸大学), 櫻井大督 (九州大学), Farid Tari (Universidade de São Paulo), 寺本 央 (関西大学), 渡辺澄夫 (東京工業大学), Dominik Wrazidlo (Universität Heidelberg)

● 報告集：ASPM から出版予定
(組織委員会委員長 西村尚史 記)